

憲法の「平和主義」を踏みにじる「安全保障関連 3 文書」に強く反対し、  
「防衛力強化 2 法案」の廃案を強く求める声明

国会の議を経ず、昨年 12 月閣議決定された「安全保障関連 3 文書」（「国家安全保障戦略(NSS)」、「国家防衛戦略」、「防衛力整備計画」。以下、「安保 3 文書」）に強く反対する。

この「安保 3 文書」には「反撃能力（敵基地攻撃能力）」の保有が明記され、「集団的自衛権の行使」も認められるとされる戦争の口火を切りかねない危険なものである。

「米軍と自衛隊の一体化」が進められ、憲法の「平和主義」は有名無実化され続けている。沖縄米軍基地と共に、南西諸島の「ミサイル要塞化」、巡航ミサイル「トマホーク」のイージス艦改造による搭載（舞鶴、佐世保、横須賀）など、次々に「戦争をする国」への備えをしている現状をゆるすことが出来ない。

物価が上がり、市民の生活が圧迫されている時に、湯水のように兵器にお金をつぎ込み、他国を威嚇し、戦争のリスクを高めていることは、到底、受け入れられない。

また、今国会審議中の「防衛力強化 2 法案」（「防衛財源確保法案」、「防衛生産基盤強化法案」）の廃案を強く求める。

ますますの軍事費の財源確保、また軍事産業支援、武器輸出経費の助成、軍事産業施設の国有化を内容とする法案は、くらしと生活を圧迫し、いのちを奪う事につながると言わざるを得ない。

これら一連の動きは、戦争と武力の保持・威嚇を放棄した「日本国憲法」（第 9 条）に反している。

日本基督教団が、十五年戦争の戦時下において国と共に戦争を遂行した過ちと罪責を深く顧みるがゆえに、今、これらの米軍と自衛隊の一体化および「安保 3 文書」ならびに「防衛力強化 2 法案」に明確に反対の声をあげる。

まことに今必要なのは、粘り強い外交・話し合いによる信頼構築であり、一人ひとりの「いのち」と尊厳が守られることである。

京都教区総会は歴史の反省の上に立ちつつ、主イエスにあって、武器を持たず、威嚇しない「いのち」の側に立つ。また、まことの平和を希求する市民一人ひとりと連帯し、「安保 3 文書」に反対し、また「防衛力強化 2 法案」の廃案を強く求める。

2023 年 5 月 20 日

日本基督教団京都教区 第 87 回(合同後第 57 回)定期総会